

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2018年3月
第32号
(年4回発行)

春の
お彼岸号

発行部数3千部



法然上人坐像 (西願寺本堂)

法然上人の生涯

シリーズ浄土宗／法然上人最後の教え「一枚起請文」

実践教室／念珠の歴史

暮らしの中の仏教語／「有頂天」

法然上人の生涯

浄土宗の宗祖法然上人の生まれた十二世紀半ば、日本では、「末法」という救いのない時代にあると考えられていました。混乱の平安末期。ただ念仏をとこなえるだけで極楽往生できるという画期的な救いを説いた法然上人はどのような人物だったのでしょうか。



法然上人は、平安時代末期の一三三年に、美作国みまさかのくに（現在の岡山県）に生まれました。父は、地方豪族の漆間時国うるまのときくにで幼名を勢至丸せいしまると名付けられました。

上人が九歳のとき、目の前で父が夜討ちにあい命を落してしまいます。父の遺言は、決して仇討などせず、仏門へ入るようというものでした。一三歳までを、叔父・観覚が住職を勤める菩提寺に身をよせますが、類まれなる才能を見抜かれ、その後、当時の最高学府であった比叡山延暦寺にのびります。わずか三年で「天台三大部」を読破し、知恵第一の法然房と呼ばれていましたが、どれだけ仏典を読み、どれだけ伝統的修行に励もうとも万民救済の道を見つけないことができず比叡山を下りました。

やがて、中国浄土教を完成させた善導が著した「観経疏」にある「一心に阿弥陀仏の名をたたえ、念仏をとこなえれば極楽往生できる」とする専修念仏の思想にたどり着き四三歳の時に京都東山吉水に庵をかまえ、立教開宗します。

上人のもとには、念仏の教えをもとめ様々な階層の人々が集まりました。貴族層では、摂政や関白を務めた九条兼実が深く上人に帰依し、武家層では、熊谷次郎直実や甘糟太郎忠綱など、庶民層では、現在の浄土宗で広く使われている連数珠を考案したと伝えられている陰陽師の阿波介、盗みをはたらこうと草庵の床下に忍び込んでいたところ、上人の説法に触れ改心して

帰依した盗人の天野四郎など、他にも農民や遊女、あらゆる人々が法然上人に帰依していったのです。

しかし、それに伴い比叡山、南都・興福寺でも反発が強まり厳しい弾圧を受けることになり、上人七五歳の時に四国へと流罪になります。一二〇七(建永二)年一月、讃岐国(香川県)に着き、上人が京へ戻れたのは四年後の一二一一(建暦元)年、七九歳の時でした。京都の青連院の隣地(現在の知恩院内にある勢至堂)に住房を構え、最後の落ち着きの場所をえますが、高齢のため体は衰え床に臥す日々となり、翌一二一二(建暦二)年、弟子の勢観房源智に浄土宗の要領を簡潔にまとめた「一枚起請文」を与え、一月二十五日、弟子たちが見守る中入滅したのです。



Q & A

Q 法然上人の生きた時代は、どのような時代だったのでしょうか。

A 上人のいらした平安時代末期から鎌倉時代は、貴族の世の中から、武士が台頭する変革期で、保元の乱、平治の乱など度重なる政争によって混乱した世の中でした。また、地震と大火さらに疫病と飢饉などに襲われ人々は不安の中にいました。

Q 末法とは？

A 仏教弾圧や僧の墮落を背景に、仏教の衰退への不安から生じた仏教思想で、お釈迦様の死後を正法・像法・末法の三つの時代に分け、正法はお釈迦様の教えが正しく行われている時代、その後、形だけの像法の時代へと続いた後に訪れる時代が末法です。末法の時代は、一万年

続くと言われ、お釈迦様の教えのみがあり悟りも修行もない救いのない世界で、日本では一〇五二年を末法初年とする。(※年数には諸説ある)

Q 上人はなぜ弾圧を受けたのでしょうか？

A 「ナムアミダブツと念仏をとなえるだけで身分や男女を問わず誰でもが極楽浄土に往生できる。」という既存仏教の教義を覆す法然上人の教えが多くの民衆の心を捉え爆発的な信仰を集めていきます。その流れを止めようと奈良時代から続く仏教勢力が度々朝廷に訴え、上人の教団は弾圧を受けることになったのです。しかし、念仏信仰はその後一層盛んになっていきました。



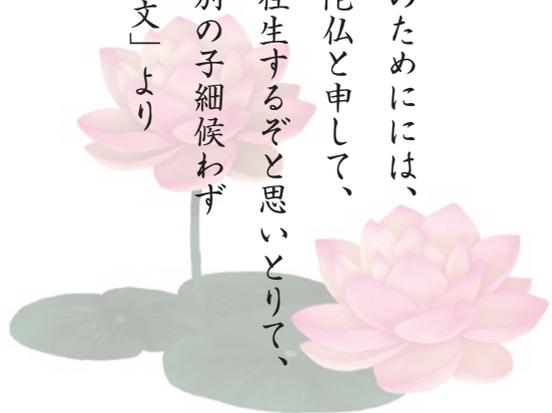
法然上人最後の教え

「一枚起請文」

「証のために両手印をもってす」と文中にあるように、法然上人自身の両手の判が押された上人直筆の「一枚起請文」は、「御誓書」とも呼ばれ。大本山金戒光明寺（京都）に大切に保存されています。

往生極楽のためには、
南無阿弥陀仏と申して、
疑いなく往生するぞと思いとりて、
申すほか別の子細候わず

「一枚起請文」より



建暦二（1212）年正月、法然上人は、老齢の身に疲れも加わり病の床にふしていました。そのような中でも念仏はとなえつづけていたと言われています。しかし、衰弱はさらに進み重態となります。もちなおした二十三日、弟子の一人である勢観房源智かんぼうげんちの最後の教えを記して欲しいという願いを聞き入れられたためられたものが「一枚起請文」です。

「もろこしわが朝に、もろもろの知者の沙汰申さるる観念の念にあらず」と書き出すこのわずか二〇〇字余りの短文には、念仏のエッセンスが簡潔に記されており名文中の名文とされています。

死期が迫る中、一枚の紙の上に、しっかりとした筆跡で、念仏の心とその実践について凝縮された法然上人の本意が書かれ、最後には、「滅後の邪義をふせがんとために所存をしるし畢んぬ」（私の滅後、間違った考えが起こるのを防ぐために、私の考えを記しておく）とし、上人自身の確認とともにその証明として、本文の上に両手の印を押されました。

「一枚起請文」をしたためられた二日後の建暦二（1212）年一月二十五日。法然上人は念仏をととなえながら静かに往生され八〇年の生涯を閉じられたのです。

数珠の歴史

私たちにとって、最も身近な法具に数珠があります。仏前に礼拝するときに欠かせない法具である数珠は、長いもの、二重のもの、男性用、女性用などあり、色も珠の素材も様々です。



数珠の起源

数珠の起源については諸説ありますが、お釈迦様が生まれる以前からあったとされています。今から3500年以上前にできたバラモン教の教典に登場する毘沙門天、弁財天、梵天の持ち物として「連珠」という記述があり、それが「数珠(念珠)」の原型になったという説が有力で、また、ヒンドゥー教の信者も、祈りの回数を数える際に数珠を使う習慣があったとされており、この習慣をお釈迦さまが仏教に取り入れ後に中国へと伝えられました。

日本への伝来

百濟から仏教が伝来した538年。それとほぼ同じ時期に念珠も伝来した

とされています。念珠が文献に初めて登場したのが天平十九年(743年)法隆寺の資材帳でした。正倉院には、聖徳太子の愛用品とされる蜻蛉目金剛子の数珠や、聖武天皇の遺品である水晶と琥珀の数珠が現存しています。数珠は当時、船載品として非常に貴重なもので、一部の僧侶や限られた貴族の間でしか使用されていなかったようです。

一般庶民への浸透

平安末期から鎌倉時代以降になると、仏教が民衆化し数珠は仏具として僧侶以外の一般庶民へも普及していきます。それまでは国家や貴族のための仏教が鎌倉時代に入ると、在家の信者がふだんの生活の中で実践できるやさしい教えを説く宗派が次々と生まれ、それに伴い数珠も宗派にあわせて使いやすく改良されていったのです。

浄土宗の数珠

浄土宗の数珠は、念珠とも呼ばれ、形も二つの数珠を組み合わせた独自の二連の数珠を用います。日課数珠と呼ばれるこの形は、法然上人の門人、阿波之助が考案したといわれ、となえた念仏が数えられる仕組みになっています。

念珠の修理

永く使っていると念珠を繋いでいる紐が切れるなど、念珠が壊れることが

あります。「縁起が悪い」などと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、そのようなことはありません。それだけ念仏に励んだことの証ではないでしょうか。繊維の疲労や摩耗で紐が伸びてきたら修理に出すことをお勧めします。

暮らしの中の 仏教語

「有頂天」【うちょうてん】

嬉しいこと絶頂を表す言葉として「天にもものぼる気持ち」や「有頂天になる」などがありますよね。「あの難関を突破してすっかり有頂天になってる」なんて会話も聞こえてきます。

さて、この有頂天も仏教語なのです。有頂天は、仏教的世界観の三界(欲界、色界、無色界)の最上地点のことで非想非非想天(ひそうひひそうてん)などとも言われています。まだ迷いの世界ではあるものの形ある世界の最頂の場所をさすことから、私たちが日常で使う喜びや幸せの絶頂の気持ちを表す言葉になったのでは…。



今年から 施餓鬼会の日程が変わります

毎年、8月に執り行われていた、西願寺大施餓鬼会ですが、本年より5月に営まれることになりました。



■西願寺大施餓鬼会法要のご案内■

日時 平成30年5月25日(金)
13時より余興(落語)三遊亭春馬師匠
14時より法要

先祖追福のために、また一切の生物の霊を慰め、あわせて自分自身の福德延寿を願う施餓鬼会法要は、年に一度の大供養法要です。万障お繰り合わせのうえ、ご出席ご参詣いただき御仏前にご焼香供養ください。



七福神めぐり ウォーキング



遊馬・柳島 七福神めぐりウォーキング (新年開運七草粥の会) 報告

昨今の健康ブームの中、
本年も1月7日に七福神
めぐりウォーキングが開
催されました。ウォーキ
ングの後には今年一年の無病息災を願い振
舞われた七草粥をご
参加の皆さんで頂き
ました。

多くのご参加あり
がとうございました。



厄払い節分会法要(豆まき) 報告

去る2月3日は、毎年恒例となった西願寺「厄払い節分会法要」が開催されました。今年も多くの方がご参加くださり、豆まきの楽しいひと時を過ごされました。



掲 示 板

彩の都メモリアルパーク 管理事務所 管理費口座引落としの お知らせ

平成30年度分管理費が
下記の日程にて口座より
引落としをさせていただきます。
口座の残高が不足し
ている場合引落としが完了いたしません
のでご確認ください。



第1回引落とし 平成30年3月6日(火)
第2回引落とし 平成30年4月6日(金)
(第1回で引落としが出来なかった方のみ)

※第1回引落としができなかった場合は、4月6
日に再度引落としの手続きをいたします。

●春彼岸会

3月18日(日)~3月24日(土)

●葬祭フェア開催

3月18日(日) 10:00~

場所▶彩の都 あすま会館

当日は、会場で祭壇等の展示をし葬儀に
ついてのご相談やご質問をお受けいたし
ます。お気軽にお越しください。



■葬祭フェアについてのお問合せ

(彩の都 あすま会館)

TEL.048-921-4194

■次号予告

次号は平成三十年七月発行予定の「お盆号」です。

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんか」編集部
東京都千代田区飯田橋四・七・十一カクタス飯田橋ビル7F
FAX 03(32205)1602 Mail: info@j-c-con.net

◆イオ株式会社

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や
悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、
ぜひお気軽にお寄せください。

■お便り募集■

毎週水曜日は管理事務所の定休日とさせていただいており
ます。事務手続き、電話問合せなどの業務は行えません。
皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご了承ください。

西願寺別時念佛会のご案内

西願寺では、毎月25日に本堂にて。別時念佛会を
開いております。心の安らぎにもなる念佛を一緒
にお勤めしませんか。

日時/毎月25日 18時より

◆参加申込：

事前にご連絡をお願い致します。
お気軽にご参加ください。
※当日灯明料をご奉納願います。

申込・お問合せ 西願寺

TEL. 048-925-1723





◆編集後記◆

「さんが」春のお彼岸号は、まだまだ寒い日も多い時期での発行ですが、それでも八百屋さんやスーパーの店先には春野菜が並びはじめ、季節は日ごと春へと向かっているんですね。

さて、今号の「さんが」では法然上人について掲載しております。紙面では触れていませんが、実は法然上人の好物はお豆腐だったそうです。流罪となった上人が滞在していたと伝わる香川県のお寺には「法然水」という井戸が残っていて別名「豆腐乃井戸」と呼ばれているのだとか。上人を慕う村人たちが毎朝、法然上人が好んだとい豆腐を井戸に浮かべて冷やしたのでそうです。常に庶民と共にあった法然上人のお人柄が感じられますね。今日のご飯は上人のご遺徳を偲び、春野菜と豆腐を使ったレシピにしようかな。

発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三四〇〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三四〇〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんが」編集部